

MySQL 5.0. 88 リリースノート（日本語翻訳）

修正されたバグ:

- **セキュリティ修正:** OpenSSLに対してリンクされたMySQLクライアントが、yaSSLに対してリンクされているサーバから提示されたサーバ証明書をチェックしなかった ([Bug#47320](#)) 。
- **MySQL Cluster:** データノードが1メガバイトの先頭ページにそのGCIマーカを書き込んだ後、該当ノードが該当ページ（マーカ）を処理してからLCPを完了する前のリスタート中に強制終了されると、該当するデータノードがファイルシステムエラーで失敗する可能性があった ([Bug#44952](#)) 。

[Bug#42564](#)、[Bug#44291](#) も参照。

- **レプリケーション:** マスタ上で、あるセッションをクローズした場合、以下のいずれかの条件が成立している場合、該当セッションに属するテンポラリテーブルが間違ったデータベース名でログに記録された。
 - a. テンポラリテーブルが属するデータベースの名前の長さが、現在のデータベース名よりも長かった。
 - b. 現在のデータベースが設定されていなかった。

([Bug#48216](#))

[Bug#46861](#)、[Bug#48297](#) も参照。

- クエリに、テンポラリテーブルを使用するビューが含まれており、FROM句およびPROCEDURE ANALYSE()に複数のテーブルが含まれている場合、サーバがクラッシュした。

本バグを修正した結果、PROCEDURE ANALYSE()はトップレベルのSELECTでのみ有効になった ([Bug#48293](#)) 。

[Bug#46184](#) も参照。

- **SELECT** ステートメントで、WHERE句にサブクエリが含まれており、**SELECT**の結果がユーザ変数に代入される場合、エラー処理が実行されなかった。その結果、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#48291](#)) 。

- オプティマイザが SPATIAL インデックスを使用していると、表明が失敗する可能性があった ([Bug#48258](#)、[Bug#47019](#))。
- 1つのクエリ内で GROUP BY WITH ROLLUP、DISTINCT、および [const](#) 結合タイプを組み合わせて使用すると、DISTINCT の解決にオプティマイザがテンポラリテーブルの採用を選択した場合、サーバがクラッシュした ([Bug#48131](#))。
- [mysys/mf_keycache.c](#) にはスレッディングが必要であるが、スレッドサポートのテストが実行されていなかった ([Bug#47923](#))。
- [GeomFromWKB\(\)](#)関数は、その第 1 引数がジオメトリ値の場合、その値を単に返すのみであるが、該当引数の null_value フラグを保持しないため、予期しない NULL 値が呼び出し元に返され、その結果サーバがクラッシュした ([Bug#47780](#))。
- GPL のヘッダと商用ライセンスのヘッダのサイズが異なっていた。そのため、エラーログ、backtrace、コアダンプ、およびクラスタトレースファイルの行番号は、ビルドに使用されたソースのバージョンに照らしてチェック (GPL ビルドの backtrace を商用ソースに照らしてチェックするなど) しないと、1つずれる可能性があった ([Bug#46216](#))。
- Red Hat IA64 MySQL サーバ RPM のビルド時、システムライブラリのリンク順序が正しくなかった。その結果得られる Red Hat IA64 RPM は "libc.so.6.1(GLIBC_PRIVATE)(64bit)" に依存することになり、該当パッケージをインストールすることができなかった ([Bug#45706](#))。
- [BIT](#) 値を符合なしとして処理することができないと、予期しない結果になる可能性があった ([Bug#42803](#))。
- 外部結合がネストしていると、内部のデータ構造の処理が不適切なために、クエリがクラッシュしたり正しい結果にならない可能性があった ([Bug#42116](#))。
- スレーブで [innodb locks unsafe for binlog](#) が有効になっているレプリケーションシナリオの場合、行は (レプリケーション経由ではなく) スレーブ上でのみ変更されるが、スレーブのエラーログに「InnoDB: Error: unlock row could not find a 4 mode lock on the record.」という形式のメッセージが多数書き込まれる場合がまれにあった ([Bug#41756](#))。
- 以前削除された [mysql_odbc_escape_string\(\)](#)関数のスタブが、ABI の破損を修正するために復元された。この関数は、プライベートかつ Connector/ODBC 専用であったが、ABI の一部としてエクスポートされた。それにもかかわらず、元の関数が本来破損していて使用すべきではないため、現在はスタブのみが復元されている。
[Bug#29592](#) も参照 ([Bug#41728](#))。
- ユーザの名前を変更した後に、そのユーザに権限を許可すると、ユーザが許可された権限以外の権限も所持する可能性があった ([Bug#41597](#))。

- [GRANT](#) の属性（テーブル名やユーザ名など）間のレターケースの違いをサーバが認識しない場合があった。たとえば、ユーザが同じユーザ名でレターケースが異なる別のユーザ権限を使用し、テーブルに対して処理を実行することができた。

本バグを修正した結果、mysql.proc テーブルの Routine_name カラムに対する照合は、utf8_bin から utf8_general_ci に変更されている（[Bug#41049](#)）。

[Bug#48872](#) も参照。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。